

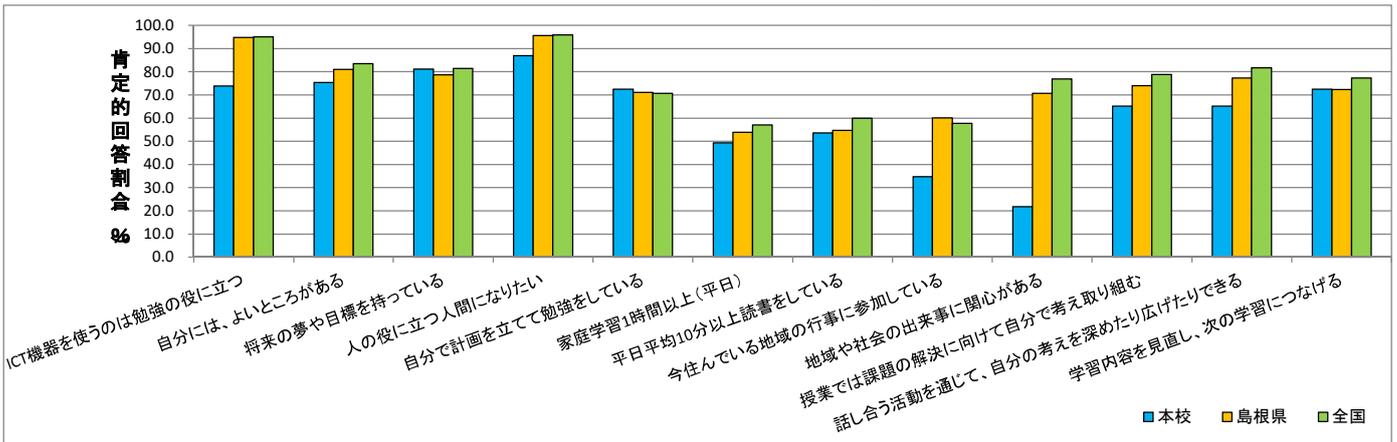
(1) 学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対策(・)
国語	○短答式の正答率が高いが、記述式になると正答率が低い。 ○「国語の勉強は大切だと思いますか。」については、97%の児童が肯定的に捉えている。(県・全国を上回っている) ○「国語の授業の内容はよく分かりますか。」については、93.4%の児童が肯定的に捉えている。 ●49「国語の授業で、書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見つけていますか。」が全国平均と比べて低い。 ●無解答の割合が全国平均の2倍以上である。 ●説明文を読み、読み取ったことを要約したり、自分の考えをまとめる力に課題が見られる。 ●話すこと・聞くこと・読むことに課題が見られ、思考力・判断力・表現力に課題が見られる。	・文章記述への抵抗感を減らしたり、慣れたりするために、自分の考えや意見、振り返り等を書く機会を設定する。 ・図書館教育は新聞活用教育、ICTとをうまく組み合わせることで、情報選択の方法を知らせる。 ・条件付きの日記やテーマ作文に取り組ませる。 ・授業の中で、少人数のグループで、お互いが書いた文章の感想や意見を伝え合う機会を多くする。 ・国語だけでなく他教科でも、お互いの意見や考えを伝え合う活動を取り入れる。自分の考えをもち伝え合う通して、思考力・判断力・表現力を高めていく必要がある。
算数	○選択式の正答率が高い。 ○基本的な計算については正答率が高く、無回答率も低い。 ●記述問題の正答率が低く、無回答率も高い。 ●自分の考えを書いたり、表現する問題の正答率が低く、無回答率も高い。 ●中位層のやや低い児童の割合が多い。	・グラフや表を読み取り、その違いや理由を表現させる力をつける。 ・文章を読み取り、表現する力をつけるような学習内容を増やしていく。 ・思考を必要とする問題を解いていくようにする。 ・普段の学習の中で「考えを書く」「発表する」という活動に繰り返し取り組む。 ・個人思考の時間を大切に、必ず考えを伝え合う時間を確保する。 ・図形についての意味理解に重きを置いて指導する。 ・操作を通して体験的な活動で理解を促す。 ・低、中学年からの積み上げを重視する。

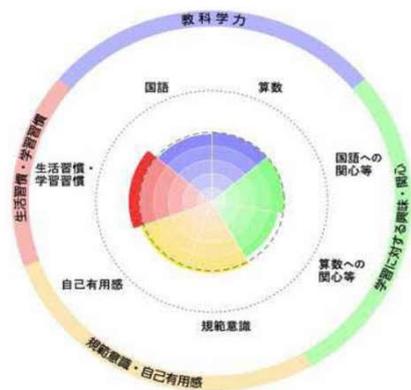
(2) 児童質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対策(・)
質問紙	○学校に行くことが楽しいと感じていたり、友人関係に満足している児童の割合が高い。 ●自分の考えを発表するときに、資料や文章、話の組立てなどを工夫してできたという児童の割合が低い。 ●タブレットなどのICT機器を授業で使う頻度が少ないと感じている児童の割合が多い。	・授業の中で発言をする機会を増やしていくとともに、自分が伝えたいことを文章にして整理する力をつけられるようどの教科でも指導していく。 ・タブレットを使った調べ学習やドリル学習をどの教科でも計画的に進めるとともに、ICT機器の機能を十分に活かした授業を展開していく。

(3) 児童質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4) 学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・学び合いの授業実践を意識しながらグループでの交流や意見交換を通して思考力・判断力・表現力を高めていく。
 ・玉湯学園ならではのつながりを生かした活動や、地域のこと・もの・人とのかわかりを生かし、学んだことを応用し他の場面でも使える力を育てていく。

【受検者数】

74 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。